

双葉西小だより

令和元年5月20日号 文責 学校長 中村雅彦

明治・大正・昭和・平成そして令和へ 引き継がれる伝統の重みを感じて

令和元年。時代の節目にあたり、様々な関連行事も執り行われています。今年度も新学期が始まり約2ヶ月が経過しました。10連休を挟みましたが、皆様方のご理解・ご協力のもと学校経営もPTA活動も順調に軌道に乗りつつあります。



5月11日 学校創立記念日によせて

双葉町史を元に歴史をたどれば、双葉西小学校は明治6年の学制発布をうけて下今井村、志田村、宇津谷村、岩森村、上之山村の5カ村が協議し、志田村興禅寺を仮校舎とした「志田学校」として産声を上げたと記されています。当時は生徒数40名程度であったそうですが、翌年には合併により塩崎村が誕生し、校名も「塩崎学校」と改称されたとのことです。

また、創立140周年記念誌にも『当時から地元の皆様の学校への期待は熱く、それに応えるように、国立国会図書館所蔵の、「山梨県甲斐国小学校生徒勉強鏡」（明治11年発行：山梨県下の児童の成績番付）にも塩崎の児童の名前が掲載されており、「東の谷村、甲府の琢美、南の市川、北の塩崎」といわれるほど有名校になっていたようです。』との記述があります。今年で146周年を迎える本校ですが、長きに渡る歴史の中で、歴任教職員と地域の皆様方との信頼関係に基づく取り組みと、それに応じてきた児童の努力が本校の歴史そのものであると感じ取れます。

時代が変遷し、変化の激しい社会になったとしても、学校は地域になくしてはならないシンボルであることには変わりありません。現在も「双葉で育ち、双葉を育てる人づくり」のスローガンのもと、県下に範となるコミュニティ・スクールとして成熟期を迎えておりますが、この伝統を引き継ぐべく職員一同努力して参りたいと考えております。令和の時代となりましたが、更なる発展を遂げられますように、今後とも学校教育へのご理解とご協力を重ねてお願いいたします。

めざせ！西笑学校！昇学校！正学校！

児童会活動も6年生を中心に本格的に始動しました。5月10日（金）には3年生以上の児童が参加して、第1回児童総会が開催されました。

「昨年度は『アクティブ!』を中心に据えて活動を進めてきました。今年度はこの三つの学校（笑学校・昇学校・正学校）を達成できるように、昨年度よりももっと頑張りましょう。（後略）」という児童会テーマの提案を皮切りに始まった今年度の児童総会では、児童会本部や各委員会から様々な活動内容が提案され、それに対する質問や意見も数多く出されました。議長の上手な進行もあり、活発で充実した話し合いが展開されました。笑いが絶えない楽しい学校、ステップアップしていける学校、ルールやきまりを守る正しい学校・・・これらのことが全校児童の力で達成できたら素晴らしいことだと思います。冒頭の校長の挨拶でも話しましたが、「何のための取組なのか」をどれだけ意識して取り組むかによって、成果も大きく変わってくるものと思います。取組の目的を意識した児童の主体的な活動に期待をするとともに、目標の達成に向けて後押しをしていきたいと考えています。



ありがとうございます！学校応援団・外部講師の皆様

今年も学校応援団や外部講師の皆様方が、子供たちの学習活動の支援を行ってくださっています。作物の栽培指導やその準備、一輪車等校内備品の点検整備、学習指導や読書活動の推進など、様々な角度からご協力をいただいております。また、今後学校から様々なボランティア募集の便りをお届けしますが、多くの皆様方にサポートに入っていただけたらと考えますので、ぜひ気軽に学校に足を運んでいただき、子供達の活動の様子を見守っていただけたらと思います。(ボランティアという形で気軽に学校に入り、子供たちの様子を知ったり、親子と一緒に学習に参加したりできるのも双葉西小ならではの教育スタイルです。)



にしの日の作業



ジャガイモ植え付け(6年)



米作り開始(5年)



初めてのリコーダー(3年)



点検修理作業

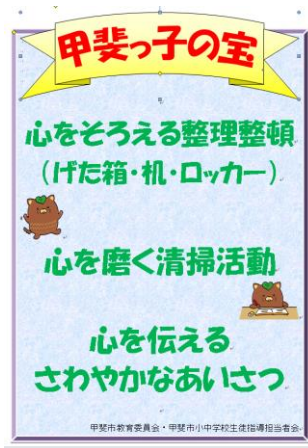


朝の読み聞かせ

甲斐市で推進『甲斐っ子の宝』プロジェクト

子供たちの生きる力を育むためには、支えあい高めあう集団づくりを行い、規範意識を向上させ、学校が自主自立を確立する落ち着いた学びの場になるよう、意図的・計画的に「生活規律」の指導を行う必要があります。また、子供たちが社会で通用する力を育むためには、義務教育9年間を見通して一貫した「生活規律」の指導を行う事が大切です。

そこで、学級学年や学校の壁を越え、市内小中学校が同じ視点を持って一貫した指導を行う事で、より効果的な指導を行う事ができるとの考えのもと、市内すべての小中学校で統一した「甲斐っ子の宝プロジェクト」に取り組んでいます。特に平成30年度からは甲斐市より「小中連携教育」の研究指定もいただいておりますので、まずは双葉地区内で足並みを揃えるべく、西小でも児童会活動や日々の生活の中で意識的に取り組んでいます。日々のささやかな実践の積み重ねが、子どもたちの将来の力になることを期待しています。



毎朝の玄関で展開される「挨拶運動」



双葉中の取組「日本一の下駄箱」をお手本に



避難訓練でも日頃の成果が見られます